

学校が変わります！

那須町コミュニティ・スクール

～ 地域が学校のサポーター(支援者)からパートナー(仲間)へ ～

学校のサポーター 「学校支援協議会」

学校適正配置計画と 学校支援協議会の設置

学校支援協議会には、地域から選ばれた「地域教育コーディネーター」が配置されています。地域教育コーディネーターは教育委員会に任命され、学校の希望等に応じて地域のボランティアを探し調整を担っています。

旧校区から1名ずつ選出され、1校に1〜3名が配置されています。現在16名の地域教育コーディネーターが活躍しています。地域教育コーディネーターとボランティアの協力により、子どもたちの学びがより豊かになっています。

学校支援協議会のかねめ 地域教育コーディネーター

町は、平成24年に学校適正配置等計画を公表し、小中学校の統廃合を進めてきました。これと同時に、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを守り、ふるさとに貢献しようとする意識を育てるために、子どもたちの学びを地域ぐるみで支援する体制づくりを行いました。それが「学校支援

協議会」です。平成26年度、4小学校に学校支援協議会を立ち上げ、その後、統廃合後の新設校に順次設置しています。

学校のパートナー 「学校運営協議会」

学校運営協議会の導入

町では、設置から3年を経過した「学校支援協議会」を「学校運営協議会」に移行する準備を進めています。

学校支援協議会は、学校のサポーターとして学校を支援する立場ですが、学校運営協議会は学校のパートナーとして、学校と地域が協働し、地域の子どもたちをどのように育てていくのか、そのためにどうするかを一緒に考えていきます。学校、保護者、地域住民が力を合わせて学校の運営に取り組む、地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを進めていきます。

学校運営協議会を設置することによって、地域と学校が一体となって発展し、そこに関わる大人もともに学びあふ育ちあふ教育体制を築くことが理想です。

学校運営協議会は、次の4点について協議します。

①校長の学校運営に関する基本的な方針の承認

校長が作成する学校運営の「基本方針の承認」を通して、学校や地域、子どもたちが抱える課題に対して関係者が皆、当事者意識を持ち、「役割分担をもって連携・協働による取組」ができます。

②学校運営に関する意見の申し出

学校の運営全般について、広く地域住民、保護者、学校職員等を代表する委員がともに考え行動することで、学校運営の改善につながります。

③学校運営に関する評価および情報提供

学校関係者評価を一体的に推進することにより、地域と学校が学校運営に関する成果や課題を共有でき、改善サイクルを充実させることができます。

④地域学校協働活動の推進

これまでの「学校支援」から「連携・協働」へと発展すること、学校と地域がパートナーとなつて、ともに子どもたちを育て、そのことを通して地域も創っていくことにつながります。

今後の計画



今年度、学校支援協議会を設置して3年が経過する学校は、那須高原小、田代友愛小、高久小、黒田原小の4校です。平成30年度は那須中、平成31年度は東陽小、学びの森小、平成32年度は那須中央中が、3年経過とともに学校運営協議会に移行していく予定です。

学校運営協議会を設置した学校を「コミュニティ・スクール」と呼び、市町村はコミュニティ・スクールを設置するよう努める義務があります。将来的にはすべての小中学校に学校運営協議会を設置し、その地域の特性に合ったコミュニティ・スクールを支援し、「地域とともにある学校づくり」「学校を中心とした地域づくり」を進めていきます。

学校と地域・保護者が力を合わせて学校運営に取り組む、地域の活性化につながるコミュニティ・スクールは、大きな可能性を持っています。